

小学校 第6学年 国語科書写 学習指導案

千葉県市原市立五井小学校
教諭 君塚 祐亮

単元名 文字の組み立て方（三つの部分）『湖』（3時間）

単元のねらい

- 三つの部分の組み立て方に気をつけて、字形を整えて書くことができる。
- 三つの部分の組み立て方を確かめて、硬筆で字形を整えて書くことができる。
- 左右、上下、中と外の組み立て方に気をつけて、硬筆で書くことができる。

本時のねらい 三つの部分の組み立て方について理解することができる。（第1時）

指導時期 6・7月

「指導者用デジタル教材」活用の意図・目的

書写指導を行う際、教師が困難に感じることは「毛筆で示範すること」である。教師の技術的指導力を問われてしまえば、誰もが指導できる書写にはほど遠いであろう。書写の学習は、毛筆の技術指導を行うだけでなく、文字の原理・原則について学んだり、文字文化に慣れ親しんだりして、文字意識を高める学習である。「指導者用デジタル教材」の効果的な活用により、より充実した書写の学習を実現したい。

本単元「文字の組み立て方（三つの部分）『湖』」では、それぞれの部分の大きさや位置を理解し、形を整えて書くことが重要になる。また、部分の組み合わせでできた漢字は、点画が変化する場合があることも理解する必要がある。「指導者用デジタル教材」の動画や「比較ツール」は、これらの学習の一助となるであろう。

本時（第1時）の展開

	活動内容	デジタル教科書・教材の活用
導入 つかむ 考える	● 「指導者用デジタル教材」の初期画面を開いてコンテンツを起動する。 【ためし書きをしよう】 ● 本時の教材文字が『湖』であることを確認してから、教科書を見ずに試書をする。 ■ T：筆順を確認するために、全員で『湖』を空書きしましょう。 ■ T：教科書を見ずに『湖』の試し書きをしましょう。	 ● 児童は、タブレット端末のカメラ機能を用いて試書を撮影し、保存しておく。

	活動内容	デジタル教科書・教材の活用
導入 つかむ 考える	【めあてを知ろう】 めあて 三つの部分の組み立て方に気をつけて書こう。 【考えよう】 ● 試書と教材文字を見比べて、本時の学習課題をもつ。 ■ I： 試し書きと教科書の文字を見比べて、異なっているところや難しかったところがありますか。 ● C： 「し」と「古」と「月」の間に隙間ができてしまいました。	● 拡大した教材文字を黒板に掲示しておく。 ● 「比較ツール」を開き、タブレット端末で撮影した試書と教材文字を比べる。  ● 課題をペン機能で書き込む。 
展開 確かめる	【練習をしよう】 ● 三つの部分の組み立て方のポイントを確認する。 ■ I： 自分の試し書きと比べながら動画を視聴して、組み立て方のポイントを確認しましょう。 ポイント ① 部分の幅 「古」と「月」は細身に。 ② 部分の高さ 「古」は「し」と「月」に比べて高く。 ● 三つの部分の組み立て方に気をつけて練習する。	● 動画「ポイント」を視聴し、具体的な組み立て方を捉える。  ● 動画「全体像」を繰り返し再生に設定しておき、練習する児童が好きなタイミングで視聴できるようにする。 

	活動内容	デジタル教科書・教材の活用
まとめ 振り返る	【まとめ書きをしよう】 ● 三つの部分の組み立て方に気をつけてまとめ書きをする。 【ふり返ろう】 ● 次時への課題をもつ。 T：試書とまとめ書きを「比較ツール」で比べ、よくなった点と次回の課題を見つけましょう。 T：次の学習では、今日の課題をもとに毛筆で練習し、三つの部分から組み立てられている他の漢字についても学習をしましょう。 評価 三つの部分の組み立て方に気をつけて書いている。(知識・技能)	● 「比較ツール」を活用して、試書とまとめ書きを比べる。 

「指導者用デジタル教材」を活用したことで得られた効果

本時に使用しているコンテンツは「比較ツール」と動画である。試書と教材文字を見比べることや、試書とまとめ書きを比べることは、本来タブレット端末を介して行う必要はないが、タブレット端末のカメラ機能とデジタル教材にある「比較ツール」を活用するメリットについて説明をする。従来のように、教科書と自分が書いた文字を比較すると、自己批評のみで完結してしまうことがある。しかし、タブレット端末を介することにより、児童の画面を大型モニターに映し出すことができ、他の児童との比較、共有が可能になる。さらに、ペン機能を使えば、自分が書いた用紙は汚さずに、タブレット端末の画面上で、振り返りやポイントを書き込むことが可能になる。したがって、より主体的に自身の文字と向き合い、他者との対話的な学習を可能にすると考えられる。

各種動画の視聴のメリットとしては、筆脈や書くときのスピード感、リズム感を視覚的に捉えられることにあるだろう。教材文字は常に完成された文字である。また、その教材文字は、漢字学習で既習の場合がほとんどであるため、児童は教材文字を注意深く見ることなく、自身の頭の中にある想像上の字形で書いてしまう傾向にある。その点、動画では、文字ができあがっていく様子を見ることができ、一つ一つを丁寧に観察して書くことができるのではないかと考える。

本単元に限らず、「指導者用デジタル教材」を扱う最大のメリットは、教師の書く技量に左右されずに授業を行えることにある。ただやみくもにデジタル教材を使用するのではなく、児童の学習理解の助けとなる場面において、効果的に活用していきたい。しかしながら、書写は書く技能を伴うことには変わりないため、毛筆や硬筆といった書くための用具を用いて、実際に「書く」という時間は十分に確保してあげたい。